

環境保全のボランティア体験講座 2025 第3回講座レポート

第3回目の講座は7月13日(日)に和泉市にある信太山丘陵里山自然公園と、そこに広がる惣ヶ池湿地での開催です。右の写真は出発前の集合の様子で、この日の受講生は16名。本日のスケジュールの確認と活動時用の班分けをした後、貸切バスに乗り込みました。



信太山丘陵は、弊社(大阪市内)から高速を使って約40分程度で到着する、比較的近場の活動地になります。ここは生物多様性が高く、絶滅危惧種が多い地域であることから、大阪府の生物多様性ホットスポットAランク(最高ランク)に位置付けられています。

バスが到着後、受講生は左下の写真の信太山丘陵里山自然公園管理棟に入って、まずは今回お世話になる信太の森FANクラブの田丸代表(写真右下)のご講演を聞きました。田丸さんからは、この地の歴史や娯楽施設ができそうになった時の市民運動、湿地の保全事業の経緯や団体の設立経緯などをご説明頂き、受講生は静かに耳を傾けていました。



この地についての理解を深めたところで、早速屋外に出て午前中は活動地の視察をしました。



まずは公園西エリアで、田丸さんは植物に含まれるシュウ酸によって、くすんだ10円玉がピカピカになるよといった実演をしたり、アラカシの木の特徴やその林の樹木管理について半分伐採して草原にした経緯のお話、そして草原への外来植物の侵入の経緯などを述べられました。また、今回ご作成いただいた、見つけた動植物の名前をどんどんチェックしていく調査リストを、受講生たちは田丸さんが植物を紹介するたびに記入していく様子が見られました。



さて、いよいよ惣ヶ池湿地へと足を踏み入れます！
 柵の入口で、靴裏についているかもしれない外来植物の種などを専用マットで拭ってから入場します。
 こういった細やかな対策をしていないと、貴重な野生動植物種の生息域に外来種が大繁殖！なんてことも考えられます。



そして柵を過ぎれば目の前に湿地の景色が広がりました！



まずは食虫植物で大阪府の準絶滅危惧種コモウセンゴケの観察です。
湿地に敷かれた木道の幅が狭い為、見た人は先に進んでいく方法で順番に見て回りました。



珍しいハラビロトンボ(下の写真はメス)が普通に見られました。
受講生たちはたくさん飛び交う珍しいトンボや見たこともない植物に興味津々です。



その後も、田丸さんの生きものの紹介は続き、受講生は調査リストにチェックしたりメモを取ったりしていました。

下の写真をご覧のように湿地外周部は木陰が多く、涼しさを感じられる箇所もあるほどでした。



写真左下奥に見えるのが活動拠点です。

信太の森 FAN クラブの皆様が活動されるときに使う道具をしまっておく倉庫や、休憩をされるのに使う丸太椅子などが並んでいる場所です。

湿地の周囲をぐるっと回ってきた一行は、この横で休憩に入りました。



ブルーシートの上で休憩する受講生たち。

木陰が多いのが写真でも見て取れますね。



さて、休憩が終わり午後からは草刈りと階段作りです。
 2つの班に別れているので、草刈りを先にする班は後半で階段作りに、階段作りを先にする班は、
 草刈りを後半で行いました。
 以下の写真は草刈りをしている時のものです。
 はじめに右下の写真のように、鎌の使い方のレクチャーを受けてからはじめました。



左の写真のように、一旦刈り取った草はレーキなどを使いブルーシートに乗せて、ある程度集まると集積地に引きずっていく方法で作業効率UPを図っていました。

下の写真は軍手に止まりに来たコミスジ。
 汗の中のミネラル成分を吸いに来たようです。



以下の写真は階段作りの様子です。



横木と呼ばれるものと杭を、ナタやノコギリを使って作成している様子です。
はじめて使う道具が思い通りに使えていないと、皆さん少し悩みながらも、最終的にはうまく作業できていました。

下の写真は杭打ちの様子です。
たまに杭が刺さっていかない時は石などが地中にあり、その時は差し込む位置を変えるなどの対応を取るという対策も学べました。



2人で杭を支えている間に打ち込むなど、みんなで力をあわせて作業できました。

階段 2ヶ所を最終的に完成させた班でそれぞれ記念撮影。
完成すると達成感で満たされます。



作業が終わり、拠点に戻ってきました。
みんなの手には紙コップが。
信太の森 FAN クラブの皆さんが、コップに氷入りスポーツ飲料とお菓子を準備してくれていたのです。



最後はみんなでハイ・チーズ☆良い思い出になりましたね！



その後、信太の森 FAN クラブの皆さんとお別れした後、受講生は管理棟に行き、アンケート記入と感想の共有をしました。

数名に発表いただきましたが、アンケートでの記述内容としては全体的に階段作りの評価が高かったのと、以下のような回答がありました。

環境保全に熱心な方が多数受講していると感じました。

・湿地に何でも植物が生えているからいいというわけではなく、湿地の中に多くの植物が生えることでトンボなどの生物が卵を生めなくなるといったことが発生することに納得しました。また、年々ボランティアに参加する人が減ってきているという面でもいろんな動植物がいる所は大阪では少ないというのもあり、今後保全活動に多くの人が参加できる為にも自分の友達をさそったりして保全を手伝いたいと思いました。

・インストラクターの方のお話をとても丁寧にしっかりと聞いたことが良かったです。また聞きたいと思っているので、活動以外にも自主的に行ってみようと考えています。

以上のように保全活動の参加意欲向上を伺える回答が複数寄せられました。

また、歴史的な背景がかなり深く関わっている保全活動地であるため、以下のような回答も見られました。

・ただ作業するだけでなく、活動前に前後背景を教えてもらえることでより理解が深まった。

・歴史的、地質的な面からも湿地について知れたので、とてもわかりやすく、学びがあった。海性粘土層に水があたって、はがれて湧水として出てくるのは知らなかったし、関心が深まった。また、階段作りは自分も大学内でやろうと思っていたことなのでよかった。貧栄養の植物はあまり見る機会がないので、見られてよかった。また、多くの植物の絶滅危惧種を初めて見て興味が深まった。

・環境保全について考える中で持続性が重要だと思った。それを考えると(限界があると感じる)ただ環境保全のボランティアをするだけでなく、経済、社会法律についても学ぶ必要があると思った。

また、以下のような回答もあり、事務局としてもこのプログラムを構築して良かったと感じます。

・チームワークで階段づくりなどをして仲が深まった。

・前回よりも日陰で作業する時間が長かったのでより涼しく活動できたところが良かった。作業を通じて、より他の人とのコミュニケーションが取れたところが良かった。

更に、講座改善点も複数ご提案頂けたため、来年度以降に生かしたいと考えております。

さて、感想の共有の時間が終わり、管理棟の備品の片づけをしてからまたバスに乗り込み、信太山を後にしました。

とにかく暑い1日でしたが、木陰の多い林内での作業でしたので熱中症にもならず、無事講座を終えました。

皆さんお疲れ様でした！